

臨床研究「骨転移患者における骨関連事象が退院時 ADL に及ぼす影響の検討」について

筑波大学附属病院リハビリテーション部では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

近年がん患者数の増加に伴い、骨転移患者数も増加しています。骨転移患者は病的骨折や麻痺などの骨関連事象（Skeletal Related Events 以下、SRE）により、ADL や QOL が低下することが多くなります。ADL の低下は化学療法の継続を妨げ生命予後の短縮につながるため、骨転移患者に対するリハビリテーションでは SRE を予防しながら活動量を維持し、SRE 発生時には動作方法指導や生活環境調整をすることが重要となっています。本研究の目的は、当院でのリハ実施患者さんのうち骨転移を有する患者さんにおいて、SRE 発症と退院時の転記先に関連があるかを調査することです。

② 研究対象者

筑波大学附属病院に 2015 年 4 月～2020 年 3 月の期間に入院され、リハビリテーションを実施された骨転移を有する患者さん。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2022 年 5 月 31 日まで。

④ 研究の方法

入院中の骨関連事象の発症と退院時の転帰先との関係について診療録をもとに後方視的に調査します。

⑤ 試料・情報の項目

退院先や治療内容、ADL、リハビリ内容などの情報を診療録から収集。

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院リハビリテーション部 部長 羽田康司 医師。

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：リハビリテーション部 担当 有泉花子

電話：029-853-3795（直通） 平日 9 時～17 時